

第 19 回 IPPNW バーゼル 参加報告

2010 年 9 月 9 日 耳原総合病院 内科 斉藤和則

20 年ほど前北欧で開かれた IPPNW に行こうと応募しましたが院内で定数一人、若手優先（当時僕も若手でした）で見事はずれました。しかし実際は毎回オッサン医者が参加していました。今回は理事長が応募しなさい、との命令で文書を出し当選、しかし、オッサン一人ではアピールに欠けるので若手に声をかけ西田先生と一緒に行くことになりました。二人の顔写真入りのポスターが院内、診療所に張出されました。



当院では日常社保・平和委員会が活動しています。そして毎年研修医を中心に広島、長崎の原水禁大会へいっています。今年 5 月の NPT にも代表を送りました。IPPNW もほぼ皆勤です。

今回、全体会では核問題の歴史研究者が各国政府の重要行動（ニュージーランドの核搭載艦船寄港禁止、日本んの非核三原則など）の前には多くの国民の運動、核廃絶の声があったと報告、ドイツの原発周辺での子どもの白血病の調査をしていること、オーストラリアのラフ氏の行動提起などが印象に残りました。しかし、

米ロ政府関係者、スイスの外相は、核廃絶は重要だが実際は・・・、みたいな発言でがかりしました。

分散会で発言を予定していましたができず、以下はその弁解と今後参加する方への伝言です。

分散会は、問題提起にフリーに発言できるところ、講義形式で聞いていけばいいところ、発言者が指定されていてプレゼンするものなどがありました。私の出た分散会は通訳さんがいてくれて司会者の話、会場で手を挙げて発言する人の話が訳されよくわかりました。しかし、その場で、通訳さんがいるとはいえ日本語を聞き取り自分でそれに対し考え発言するのは無理でした。あらかじめ



司会者と打ち合わせをし、会の意図、方向性を確認しパワポを使ってのプレゼン、これはだいぶ前から準備しかつ直前司会者と打ち合わせをしなければなりません。どこかで発言しようと思っても、その会の流れがはたして自分の意図と合っているのかは、通訳さんがいない分科会ではこれまた困難です。

結局あきらめました。

事前の分散会テーマをよく理解して発言準備をする、当日開催直前司会者に自分の準備がその話の流れに合うかどうか確認する。パワポでの発表でも事前に司会者と打ち合わせが必要でしょう。討論に参加する、あるいはそのなかで発言を予定するなら、やはり話の流れ





れを司会者に聞いておくべきでしょう。

どんな分散会でも通じる方法がただひとつあります。英語をきっちり身につけること。これがあれば大丈夫、どんな分散会でも、あるいは全体会でも発言できます。

最終日ラフ氏は、政府関係者に働きかける、市民運動を組織する、医学生と行動するなどを提起しました。今回ご参加のみなさん、職場の各種集会でバーゼルの報告をしそしてこれまで積み上げて来た署名活動、核廃絶へむけての行事への参加を継続し、核廃絶は2020年までにやるんだと伝えましょう。团长さま、お疲れさまでした。

